

平成 29 年度自己点検・評価報告書



学校法人 本山学園  
岡山医療技術専門学校  
理学療法学科  
作業療法学科

## 目次

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 1. 学校の教育目標                    | 2  |
| 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 | 3  |
| 3. 評価項目の達成及び取組状況              |    |
| (1) 教育理念・目的・人材育成像             | 4  |
| (2) 学校運営                      | 5  |
| (3) 教育活動                      | 6  |
| (4) 学修成果                      | 8  |
| (5) 学生支援                      | 9  |
| (6) 教育環境                      | 10 |
| (7) 学生募集と受け入れ                 | 11 |
| (8) 財務                        | 12 |
| (9) 法令等の遵守                    | 13 |
| (10) 社会貢献・地域貢献                | 14 |
| (11) 国際交流                     | 15 |
| 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果    | 16 |

## 1. 学校の教育目標

本学園の建学の精神は、①豊かな人間性と創造力を養う②自主の精神を養う③国際的視野を養うである。その精神に則って教育目標を定めている。本校の教育目的は「教育基本法及び学校教育法に基づいて、理学療法士及び作業療法士に必要な専門知識、技術を授け、かつ医療事務従事者に必要な能力を育成し、教養の向上を図ることを目的とする」であり、学則第1条に謳っている。すなわちリハビリテーション医療、医療事務関連の分野でチーム医療の一員として社会に役立つ人材を育成することにある。この目的を達成するために、それぞれの領域において、科学に基づく知識と技術を備え、患者様に対する共感・連帯感を心に抱き、何事に対しても強い責任感を持って行動できる人材を育成し、社会に送り出すことを目標とし、常に授業の受け手である学生の立場に立った教育を目指している。

育成しようとする人材像は、以下の通りである。

- ①厳しい倫理観を持ち、自分を律することができる。
- ②科学的根拠に基づいた知識・技術を備えている。
- ③常に自己研鑽に努める向上心を持つ。
- ④患者様に対して共感し、連帯する心を抱く。
- ⑤良好な対人関係を築けるコミュニケーション能力を備えている。
- ⑥何事に対しても強い責任感を持って行動できる。
- ⑦仕事に対する情熱を持続する意思を持つ。
- ⑧自らの健康管理ができる。
- ⑨社会人としての常識（教養）を身につけている。
- ⑩国際的視野、異文化理解力を身につけている。

## 2. 本年度に重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ①学習意欲及び学力向上のため、個別指導・リメディアル教育を強化する。
- ②社会性・人間性の涵養・向上のために、教養教育・日常の生活指導を充実する。
- ③自発的・主体的に自ら課題を見つけ、学習に取り組む習慣を身につけさせる。
- ④学生の学習実態を調査し、教育の改善につなげる。
- ⑤教員の資質、教育力の向上を図る。

この具体的な取り組みとして、①～③については、入学後のスムーズな授業への導入目的のため、入学前オリエンテーションと入学後オリエンテーション、基礎ゼミ活動を充実させる。基礎ゼミ活動では個別指導に注力する。この基礎ゼミ活動を通じて学生個々の学習状況や生活面、特徴を把握するとともに、保護者との関係を密にし、1つ1つの事例に対して細やかに基礎ゼミ担当教員が対応していく。

④については、授業評価、個人面談、保護者会等を実施することで、教育のハード面やソフト面についての改善を積極的に実施する。

⑤については、教員ごとの研究・研修計画を立案し、教育分野・専門分野において教員の教育力・資質向上を図る。また、研修報告会等実施し、全教員に伝達し、教員が一定水準の能力を有するよう努力する。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

\*評価基準

5. 極めて進んでいる 4. かなり進んでいる 3. 進んでいる 2. やや進んでいない 1. ほとんど進んでない

#### (1) 教育理念・目的・人材育成像

##### 【概要】

本学園の建学の精神・教育理念に則って教育目標を定めている。本校の教育目的は、教育基本法及び学校教育法に基づいて、理学療法士及び作業療法士に必要な専門知識、技術を授け、かつ医療事務従事者に必要な能力を育成し、教養の向上を図る（学則第1条）ことである。そして、本校では常に授業の受け手である学生の立場に立った教育を行い、教員は科学的根拠に基づく専門知識と技術を備え、学生が患者様を第一に思う心を育み、何事に対しても強い責任感を持って行動できる人材を育成する。また、理学療法学科の教育目標を「患者さまを理解し、寄り添える優しさを持ち、医学的根拠をもとにチームの一員として治療を行える人材を育てる」、作業療法学科の教育目標を「作業療法を自ら探求し、実践力を育むことで人々の暮らしに貢献できる人材を育てる」と定め、入学案内・ホームページ等に明示するとともに、ホームルームや保護者会等で機会を設けて学生・保護者に周知している。

現在、平成26年度～平成30年度までの中期目標に基づき、より明確で具体的な方策を検討している。

| 評価項目                                  | 評価結果      |
|---------------------------------------|-----------|
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか               | ⑤ 4 3 2 1 |
| 学校における教育の特色は何か                        | ⑤ 4 3 2 1 |
| 学校の将来構想を抱いているか                        | ⑤ 4 3 2 1 |
| 学校の理念・目的・育成人材像などが学生・保護者・教職員等に周知されているか | ⑤ 4 3 2 1 |

#### ①課題

近年、少子化および大学進学者の増加によって、専門学校を目指す高校生が減少しており、少なからず本校もその影響を受けている。本校では、これまで蓄積されてきた教育資源とノウハウを発展的に生かし、医療施設等と密接に連携した教育サービスを創り出す取り組みをさらに強化し、現場での諸問題に応えることができる理学療法士、作業療法士の育成を課題としている。

#### ②今後の改善方策

授業科目・単位・カリキュラム・シラバスの見直しを定期的実施し、医療を取り巻く現状に絶えず目を向け、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、臨床実習指導者等の意見を積極的に取り入れながら、社会の要請を踏まえた実践的な教育を推進していく。

#### ③特記事項

特になし

## (2) 学校運営

### 【概要】

各学科の基本的な運営方針は学科長が主宰する学科会議で審議・決定している。また、学校長が主宰し、学校の全教員から構成される全体会議で、各学科間の情報共有を図り、学校全体にまたがる運営方針について審議・決定している。教務主任・教務副主任・学科長・事務長で構成される運営会議は執行機関として機能している。学校間の情報共有、共通問題の審議は、学園連絡会議で行われている。その他、就業規則、賃金規定、人事評価規程が整備されており、健全な運営体制が整っている。

また、職業実践専門課程認定校として、あらゆる情報を公開している。教育活動はパンフレット、ホームページ、facebook、LINE等で公開している。

| 評価項目                                     | 評価結果      |
|--|-----------|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか                     | ⑤ 4 3 2 1 |
| 運営方針に沿った事業計画が策定されているか                    | ⑤ 4 3 2 1 |
| 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | ⑤ 4 3 2 1 |
| 人事、給与に関する規則等は整備されているか                    | ⑤ 4 3 2 1 |
| 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか           | ⑤ 4 3 2 1 |
| 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか                 | ⑤ 4 3 2 1 |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか                | 5 ④ 3 2 1 |
| 学生の要望や意見を反映した学校運営がなされているか                | 5 ④ 3 2 1 |

### ①課題

学内の情報システム化は電子メール及び電子掲示板を活用し、ペーパーレスを推進するなど効率化が図られている。ただし、IT環境、セキュリティをさらに強化することが課題である。学科会議、全体会議、各種委員会は有効に機能していると言えるが、会議での決定事項の執行がさらに迅速・円滑に行われるようにする。また、教務委員会をはじめ各種委員会の役割を整理する必要がある。全学生に授業評価を実施し改善点を抽出し、優先事項から改善を図る。

### ②今後の改善方策

細則等を強化し、IT環境の整備をさらに進めて強化する。管理部門と教学部門の更なる連携強化を図る。

### ③特記事項

特になし

### (3) 教育活動

#### 【概要】

教育基本法及び学校教育法に基づき、厚生労働省の定める指定規則に従って、教育課程を組み立てている。1年次は基礎科目・専門基礎科目に重点をおくとともに、講義（キャリア開発論）やホームルームでのディベートやグループ活動を通して、社会人・医療人としての適性を向上させる教育を行っている。2年次は専門課程に重点をおいて編成される。3年次は臨床実習によって、理学療法士・作業療法士として医療従事者としての素養と、臨床技能を修得できるように努めている。また、国家試験対策により、確実に国家資格を取得できる実力鍛錬に努めている。3年間を通して、理学療法士・作業療法士として必要な知識・技術・態度を身につけることができるよう、綿密に準備されたシラバスに沿って講義・演習・実習を行っている。また、進級、卒業、臨床実習の判定基準は、学生便覧・内規を配布した上で、口頭説明を交えて周知させている。

教員は、専門分野並びに教育分野における自己研鑽を推進しており、全教員が研修会、学会等へ参加し内容の報告、伝達を行っている。また学内で毎年教育研修会を開催する等の多面的な活動を通じて、先端的かつ実践的な知識・技術を修得することに努めている。

外部関係者からの評価として、年度末に臨床実習指導者連絡会議を開催し、臨床実習指導者から本校や臨床実習生に対する評価や助言を受け、次年度の教育に反映させている。また、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を設置し、外部有識者からの意見をカリキュラム等に反映させている。その他、（一社）リハビリテーション教育評価機構の認定評価を受け、評価認定校に指定されている。

| 評価項目   | 評価結果      |
|--|-----------|
| 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか                            | ⑤ 4 3 2 1 |
| 教育理念、養成人材像や業界のニーズに照らして、教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか           | ⑤ 4 3 2 1 |
| 学科等のカリキュラムは関連分野のニーズに照らして体系的に編成されているか                       | ⑤ 4 3 2 1 |
| 関連分野の医療施設等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか                   | ⑤ 4 3 2 1 |
| 授業評価の実施・評価体制はあるか   | ⑤ 4 3 2 1 |
| 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか                                | ⑤ 4 3 2 1 |
| 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか                             | ⑤ 4 3 2 1 |
| 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか                       | ⑤ 4 3 2 1 |
| 人材育成目標の達成に向け授業が行うことができる要件を備えた教員を確保しているか                    | 5 ④ 3 2 1 |
| 関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか | 5 ④ 3 2 1 |
| 教員の能力開発のための研修等が行われているか                                     | 5 ④ 3 2 1 |

### ①課題

現行の教育課程は、学年ごとにバランスよく編成されているが、3年制の教育課程でさらに効率よく結果につながる方策を検討する。

教員に対して、研究・研修を実践するための支援が行われている。今後、より高度な教育を実現できる研究活動・研修会への参加を推進する。

### ②今後の改善方策

授業科目・単位・カリキュラム・シラバスの見直しを定期的実施し、学校外関係者からの意見を取り入れながら現在よりも資格取得に向けた効果的な教育ができるように整備を進める。

また、教員の研修については研修規程に基づき、支援を行う研修について内容を精査し、先端的かつ実践的な知識・技術等を修得し、教員の能力開発を進め、より効果的な教育が実施できる体制を築いていく。

### ③特記事項

特になし



#### (4) 学修成果

##### 【概要】

国家試験合格率 100%を目指し、国家試験セミナー、模擬試験、業者模擬試験、特別講義、個別対策講義、個人面談等で対策を講じてきた。その結果、第 53 回理学療法士・作業療法士国家試験合格率（新卒卒業生）は、理学療法学科 91.9%、作業療法学科 75%であった。現役合格者の就職率は 100%である。退学率について、学年担当制と基礎ゼミ制を併用し学生指導を徹底し、また、個別対応を強化することで低減に努めている。卒業生の社会的な活躍及び評価については、教員の学会活動や研修活動などを通して、また、同窓会ホームページを活用し、概ね把握するよう努めている。

在校生のボランティア活動等、社会的な活躍及び評価については、入学後の学生面接をはじめ定期的に面談等を実施することにより把握している。

| 評価項目                       | 評価結果      |
|----------------------------|-----------|
| 就職率の向上が図られているか             | ⑤ 4 3 2 1 |
| 資格取得率は高い水準を保っているか          | 5 ④ 3 2 1 |
| 退学率は低減しているか                | 5 ④ 3 2 1 |
| 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 5 ④ 3 2 1 |

##### ①課題

退学者の減少、資格取得率の向上を図るため更なる取り組みが必要である。卒業生の社会的な活躍及び評価について体系的に把握し、在校生のモチベーション向上等教育活動に反映する。

##### ②今後の改善方策

授業科目・単位・カリキュラム・シラバスの見直しにより、学生への個別対応による学習支援の時間を拡大する。また、学年担当者と基礎ゼミ担当で連携し、個別対応を充実させていく。必要に応じてカウンセリング室の利用を促し、臨床心理士による精神的ケアを行う。

卒業生の社会的な活躍及び評価については、職場・卒業生に対するアンケートの実施、同窓会との連携、実習地訪問にて動向把握に努める。

##### ③特記事項

特になし

## (5) 学生支援

### 【概要】

学科長・学年担当者が中心となって就職活動の支援を行っている。就職支援では、就職希望アンケートの実施や個人面接、求人情報配信、履歴書の書き方、就職面接対策などの支援を行っている。また、ハローワークから講師を招き、身だしなみ、就職面接について特別講義を行っている。

学生相談は、役職者、学年担当者、事務職員のそれぞれが明確な業務の目的を設定し、役割を分担することにより組織的に機能している。以前から、カウンセリング室を設置し、臨床心理士による週1回の個別相談（希望者のみ）や試験前のストレスチェック・ケアを行い、精神的な問題のケアを専門的に行っている。また、相談活動を強化することを目的に、学生相談室を設置し専任教員を2名配置している。

経済的支援体制については、困窮者に対する奨学金支援制度を整備しており、平成27年度から適用している。更に、2年生並びに3年生の成績優秀者に対する特待生制度を設けている。

健康管理については、年1回の健康診断を実施し、また日本環境感染学会の院内感染対策としてのワクチンガイドラインに沿ってB型肝炎・麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘の抗体検査を行い、抗体のない学生についてはワクチン接種を行っている。また、学生の健康管理・生活習慣のリズムを整えることを目的とした朝食サービスを実施しており、学生の心身の健康について配慮している。

学生の課外活動として、保健・医療・福祉施設からの要請によるボランティア活動を行っている。1年生には年1回の参加を義務づけ、この活動を通して職業観を醸成させている。

学園の建学の精神のひとつである国際的視野を養うための一環として、ネイティブ講師による実践英語レッスン（無料）を引き続き実施している。

保護者については、年1回の保護者会と年2回の個別面談、また日常業務で必要に応じて学年担当者から保護者に連絡をするなど綿密な連携を行っている。

卒業生については、転職のアドバイスや理学療法士・作業療法士の日常業務の相談に応じている。また、毎年数回の研修会を開催し、知識・技術向上の支援を行っている。

| 評価項目                    | 評価結果      |
|-------------------------|-----------|
| 進路・就職に関する支援体制は整備されているか  | ⑤ 4 3 2 1 |
| 学生相談に関する体制は整備されているか     | ⑤ 4 3 2 1 |
| 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | ⑤ 4 3 2 1 |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか      | 5 ④ 3 2 1 |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか   | ⑤ 4 3 2 1 |
| 学生の生活環境への支援は行われているか     | 5 ④ 3 2 1 |
| 保護者と適切に連携しているか          | ⑤ 4 3 2 1 |
| 卒業生への支援体制はあるか           | ⑤ 4 3 2 1 |

### ① 課題

心身の不調により医務室の利用者数が増加の傾向にある。そのため、臨床心理士によるカウンセリングを受けることができる等の学生の健康面を配慮する取り組みを実施してきたが、今後さらに学生相談室での相談活動を強化し、より安心できる環境を整備しなければならない。

② 今後の改善方策

学生が心身の不調を訴えた場合にすばやく対応できるよう医務室等の利便性を高める。また、カウンセリング室、学生相談室を学生に周知するために、入学後のオリエンテーションでの説明や、学生の生活空間に案内を掲示するなど情報を広げるよう努める。

③特記事項

特になし

## (6) 教育環境

### 【概要】

理学療法士・作業療法士養成施設指導ガイドラインにより施設・設備が整備されている。教育上必要な機械器具等として図書や教材関係は、年間を通じて適宜充足され学生が学びやすい環境づくりに取り組んでいる。施設は、学級単位、小集団での自主学習のために研修室が設置されている。また、個人での自主学習を促進するために、図書室に個別学習スペースが設置されている。また、13階学生食堂・展望ホール(スカイホール)も自主学習スペースやコミュニケーションの場としても利用可能としている。

防災については、学校法人で組織的体制が作られており定期的(年3回)に防災訓練を行っている。訓練内容は年度によって違うように心がけており、平成29年度は防災装置の確認、非常食の点検・試食を行った。

学内にはAED(自動体外式除細動器)を設置している。また、日本赤十字社岡山県支部主催の救急法基礎講習を受講し、緊急時の対応方法について学んでいる。

学外の実習においては、年1回の臨床実習指導者連絡会議の開催や実習期間内の実習施設訪問により、実習指導者との連携、教育体制について調整を行っている。

| 評価項目                             | 評価結果 |   |   |   |   |
|----------------------------------|------|---|---|---|---|
| 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 5    | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 図書など教育上必要な資料が系統的に整備されているか        | 5    | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 防災に対する体制は整備されているか                | 5    | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 学外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか       | 5    | 4 | 3 | 2 | 1 |

### ①課題

より効果的な講義が実施できるよう適宜教室設備を充実させる。時折、機器の故障が発生するため、迅速に対応できる施設管理体制を整備する。防災については法人と連携して、マニュアルに沿い備蓄を整備していく。指定規則改定にあわせ、学外実習内容の検討が必要である。

### ②今後の改善方策

施設・設備の更新に計画的に対応する。各教員より対応が必要なものについては意見を集約する。防災については、震災時の地域住民受け入れについてマニュアル整備を行う。学外実習内容の検討を行い、臨床実習指導者連絡会議にて実習指導者と協議を行う。

### ③特記事項

特になし

## (7) 学生募集と受け入れ

### 【概要】

求める学生像を明確に示したアドミッションポリシーを学校案内や募集要項、ホームページの入試案内のページに公開している。高校訪問や進学ガイダンスでの学校説明・情報提供、並びにオープンキャンパスの体験授業等によって、本学科での学習内容や教育環境を紹介し、理学療法士・作業療法士の分野で活躍を目指す学生並びに社会人等への募集活動を行っている。前年よりも更に、オープンキャンパスの質の向上を行い、本校の認知度を高めること、理学療法士・作業療法士の具体的な職務内容や役割について認識を高められるように取り組んでいる。オープンキャンパスは、実施後のアンケートを参考にして毎回の内容を変更し、参加者のニーズに応えられるように実践している。体験内容も学生の関心に即した内容にすべく常に改善する努力を行っている。その結果、本校の認知が高まり、オープンキャンパスの参加者数が増加している。オープンキャンパスの参加者数、就学意欲の高い入試志願者数の増加を目標に、専任教員による高校訪問の回数を大幅に増加させている。なお、オープンキャンパスと入試の開催時期を連動させることで、入試志願者数が増加するようにしている。

学生には、理学療法士・作業療法士国家試験の合格を目指して、豊富な授業時間、経験豊かな教員による指導、基礎ゼミによる個別指導が実践されている。また、通常教室以外に、図書室や個別学習の研修室が設置されている等、充実した教育環境が整備されている。

| 評価項目                        | 評価結果        |
|-----------------------------|-------------|
| 学生募集活動は、適正に行われているか          | (5) 4 3 2 1 |
| 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | (5) 4 3 2 1 |
| 学納金は妥当なものとなっているか            | (5) 4 3 2 1 |

### ①課題

医療分野への進学希望者においては、理学療法士・作業療法士の具体的な職務内容や役割についての認知度が比較的低い。また、理学療法士・作業療法士養成課程の教育内容を更に周知する必要がある。

### ③ 今後の改善方策

理学療法士・作業療法士の職務内容、本校並びに平成 30 年 10 月申請予定の岡山専門職大学（仮称）の教育内容について、高校訪問や進学ガイダンス等を活用して、高等学校の教員・学生双方に広く、積極的に紹介・説明する。

### ③特記事項

特になし

## (8) 財務

### 【概要】

予算、収支計画は過去の実績に基づいた積み上げ方式を採用しており、有効に機能している。流動比率・帰属収支差額比率ともに優れた比率を示しており、財務基盤は良好である。会計監査は、私立学校法第37条および本学園の寄附行為第18条に基づき、学校法人全体として監事および公認会計士が行い、監査報告書を理事会および評議委員会に提出している。

財務に関する情報はホームページ上で、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表を公開している。

| 評価項目                     | 評価結果 |   |   |   |   |
|--------------------------|------|---|---|---|---|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 5    | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 5    | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 財務について会計監査が適正に行われているか    | 5    | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 財務情報公開の体制整備はできているか       | 5    | 4 | 3 | 2 | 1 |

### ①課題

厚生労働省人口動態調査でも、出生率はわずかな上昇傾向ではあるが、人口減少は否めない。また、経済成長における高等学校卒業後の就職率の上昇など外部要因の変動を考慮し財政基盤を安定させる。

### ②今後の改善方策

経費効率をさらに高める。

### ③特記事項

特になし

## (9) 法令等の遵守

### 【概要】

法令ならびに厚生労働省が定める指定規則、ガイドラインを遵守した学校運営を行っている。個人情報については、学生の募集要項への記載や入学後のオリエンテーション時に文書および口頭による説明を行っている。また、個人情報保護誓約書等の書面を交わし、学生に向けて意識づけを徹底している。個人情報保護についての説明は入学時のみならず、各学年での実習前に十分な時間を割いて説明を繰り返し行っている。個人情報関連や機密事項が記された書類等は施錠できる棚に保管する等、厳重に管理している。自己点検評価は毎年実施しており、その内容を本校のホームページで公開している。また、自己点検評価の内容に沿った学内環境の改善に努めている。

| 評価項目                          | 評価結果      |
|-------------------------------|-----------|
| 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | ⑤ 4 3 2 1 |
| 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか    | ⑤ 4 3 2 1 |
| 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか    | ⑤ 4 3 2 1 |
| 自己点検・自己評価を公開しているか             | ⑤ 4 3 2 1 |

### ① 課題

自己点検評価における問題点や学校関係者評価委員会からいただいたご意見を積極的に取り入れ、時流に沿った学生や保護者への対応を迅速に進めていく必要がある。また、学内環境を改善することは継続した重点課題として取り組む。

### ② 今後の改善策

自己点検評価における問題点や学校関係者評価委員会からいただいたご意見について、学内各委員会で迅速に対応策を検討する。

### ③ 特記事項

特になし

## (10) 社会貢献・地域貢献

### 【概要】

(公社)日本理学療法士協会、(一社)岡山県理学療法士会、(一社)日本作業療法士協会、(一社)岡山県作業療法士会などの関連団体が主催する研修会の会場として、本校を利用している。また、本校教員が理事や委員として運営に携わっている。学生のボランティア活動については、併設の通所介護施設あいざたち(平成29年12月閉所)や岡山県内外からご依頼いただいた医療・保健・福祉施設などへのボランティアを推奨し支援している。専任教員の活動として、認知症カフェでの講演活動、特別支援児保育支援アドバイザー派遣事業、自治体主催の介護予防事業へ参加を行っている。次年度以降に向けて公開講座開催のため事業計画立案を進めている。

| 評価項目                            | 評価結果 |   |   |   |   |
|---------------------------------|------|---|---|---|---|
| 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 5    | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか          | 5    | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 地域に対する貢献を積極的に実施しているか            | 5    | 4 | 3 | 2 | 1 |

### ① 課題

地域からの要請による支援は積極的に実施している。本年度は悪天候により地域清掃活動を中止せざるを得なかった。天候などに影響を受け中止とならないような企画立案を心掛ける。

### ②今後の改善方策

本校の特性を生かし、また、地域や社会のニーズを的確に把握した公開講座を開催する。なお、企画立案時は予備開催日も含めて立案する。

### ③特記事項

なし



(11) 国際交流

【概要】

過去に1名の留学生を受け入れた実績がある。留学生に対する規程を見直し、留学生を受け入れやすい体制を整備しているが、平成29年度には留学生の入学希望者がいなかった。平成29年度は建学の精神「国際的視野を養う」に基づき、海外研修を実施した。また、ネイティブ講師による実践英語レッスンを通じて在校生の語学力の強化を図り、国際的視野を広げている。

| 評価項目                       | 評価結果      |
|----------------------------|-----------|
| 国際的視野・感覚を養うための取り組み等を行っているか | 5 4 3 2 1 |
| 留学生・研修生の受入れ・派遣について行う体制があるか | 5 4 3 2 1 |

①課題

入試制度を整備し、留学生の受け入れに意欲的な体制を整備しているが、目立った実績にはつながっていない。

② 今後の改善方策

留学生について各種広報媒体を利用して多方面に周知し、入学希望者を広く募集する。建学の精神「国際的視野を養う」に基づき、海外研修を実施していく。また、海外からの訪問に対応する。

③特記事項

特になし

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校は、教育理念・目標および学園の建学の精神に照らして教育活動その他の学校運営を行い、その結果について自己点検評価を毎年実施している。学校が取り組むべき課題を明確にし、学校関係者評価・教育課程編成委員会等の意見を積極的に取り入れ、次年度の改善に繋げる組織的取組みは実習指導方法の再構築やカリキュラムの改編など成果をあげている。平成 26 年度より学校法人としての中期目標・中期計画が提示され、その内容に応じて本校の中期目標・中期計画が確定し、平成 30 年度までの方針が決定している。よって平成 29 年度の自己点検評価は中期目標・中期計画に照らして行われ、評価結果に基づいて中期計画を見直し PDCA サイクルに基づいて実施していく。また、自己点検評価により教員間相互の問題認識が統一され、教育・運営面で活発な意見交換の場を持ち、改善に繋げていることは評価できる。この自己点検評価報告書は、今後ホームページ上での公表を前提に、適切な方法を確認しながら積極的に公表する。